



Sun Fire™ ミッドレンジシステム ファームウェア 5.19.0 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3270-10
2005 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Java, OpenBoot, Sun Fire, SunStorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire Midrange Systems Firmware 5.19.0 Release Notes
	Part No: 819-1270-10
	Revision A



目次

Sun Fire ミッドレンジシステムとエン트리レベルミッドレンジシステムのファームウェアのマニュアル	1
5.19.0 で導入された機能	2
サポートされているボードの種類	2
POST のパフォーマンスの向上	3
可用性機能の拡張	3
ドメインのパニックループに対する制御機能の追加	3
5.19.0 でのコマンドの追加または変更	4
一般的な情報	4
一部のミッドレンジシステムの要件	4
ファームウェアの互換性	4
ドメインでの UltraSPARC IV+ システムボードの使用	5
▼ UltraSPARC IV+ のドメインでのサポートを使用可能にする	6
▼ UltraSPARC IV+ のドメインでのサポートの状態を表示する	7
UltraSPARC IV+ I/O ボードの DR の制限事項	7
ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード	8
電源装置の障害	8
Sun Fire ミッドレンジシステムの既知の制限事項	9
SNMP: FrameManager には MIB のエントリがなく、フレーム状態トラップが発生しない (RFE 4987286)	9

sgcn_output_line(): OBP console blocked; message data lost
(バグ ID 4939206) 10

ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID
5060748、6255332) 10

setkeyswitch または testboard 処理のあとで、ボードの状態が不正にな
る (バグ ID 5066326) 10

電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される場合がある (バグ ID
5093450) 11

SC コンソールに「(tSshConn): memPartAlloc: block too big」というメッ
セージが表示される (バグ ID 6279689、6229067) 11

showcomponent の状態は disabled だが、enablecomponent の状態は
enabled である (バグ ID 6284667) 12

poweron が失敗を返したときに、誤ったメッセージが出力される (BugID
6287631) 13

RTOS: SC が ping に応答しないが、tNetTask は動作しているように見え
る (バグ ID 6287893) 13

Sun Fire™ ミッドレンジシステム ファームウェア 5.19.0 のご使用に あたって

このマニュアルでは、Sun Fire E6900/E4900/6800/4810/4800/3800 システムのファームウェアリリース 5.19.0 に関する一般的な情報およびシステムの制限事項について説明します。

このマニュアルでは、次のトピックについて記載します。

- Sun Fire ミッドレンジシステムとエン트리レベルミッドレンジシステムのファームウェアのマニュアル
- 5.19.0 で導入された機能
- 一般的な情報
- Sun Fire ミッドレンジシステムの既知の制限事項

Sun Fire ミッドレンジシステムとエン トリレベルミッドレンジシステムのファ ームウェアのマニュアル

5.19.0 ファームウェアには、次のマニュアルセットが付属しています。

- Sun Fire ミッドレンジシステム (E6900/E4900/6800/4810/4800/3800)
 - 『Sun Fire ミッドレンジシステムプラットフォーム管理ガイド』 (Part No. 819-3272-10)
 - 『Sun Fire ミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』 (Part No. 819-3276-10)
 - 『Sun Fire ミッドレンジシステムファームウェア 5.19.0 ご使用にあたって』 (Part No. 819-3270-10)

- `Install.info` – ファームウェアに付属のテキストファイル。Sun Fire ミッドレンジシステムのファームウェアのアップグレードおよびダウングレードの手順について説明しています。
エントリレベルミッドレンジシステム (E2900/V1280/Netra 1280) のアップグレードおよびダウングレードの手順については、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』を参照してください。
- Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム (E2900/V1280/Netra 1280)
 - 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』 (Part No. 819-3266-10)
 - 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』 (Part No. 819-3261-10)
 - 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムファームウェア 5.19.0 ご使用にあたって』 (Part No. 819-3256-10)

5.19.0 で導入された機能

この節では、Sun Fire ミッドレンジシステムでの 5.19.0 リリースの新機能について簡単に説明します。

サポートされているボードの種類

5.19.0 リリースでは、次のボードをサポートしています。

- PCI-X I/O ボード – これらのボードは、`showboards` コマンドの出力で PCI-X I/O Board として識別されます。I/O ボードの取り付けまたは交換の詳細は、『Sun Fire ミッドレンジシステムプラットフォーム管理ガイド』 (819-3272) および『Sun Fire E6900/E4900 システムサービスマニュアル』 (817-5854) を参照してください。
- UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボード – UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードを使用したシステムのアップグレードの詳細は、『Sun Fire ミッドレンジシステム UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードのアップグレード要件』 (819-3886-10) および『Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステム CPU/メモリーボード設置マニュアル』 (817-6032) を参照してください。

POST のパフォーマンスの向上

5.19.0 ファームウェアでは、電源投入時自己診断 (POST) 処理の実行に必要な時間が短縮されています。並列テストアルゴリズムの使用に加えて、コードの最適化も行うことによって、以前のバージョンのファームウェアで提供された障害診断の適用範囲を同様に維持しながら、テスト時間を大幅に短縮することができました。

5.19.0 リリースと 5.18.0 リリースを比較すると、Sun の計測では POST の経過時間が 20 ~ 70 % 短縮されています。使用しているシステムの構成や `diag-level` および `verbosity-level` などのファームウェア構成パラメタの設定によって、実際に短縮される割合は異なる可能性があります。もっとも大幅な向上は、UltraSPARC IV または UltraSPARC IV+ プロセッサを装備し、十分な量のメモリーを搭載したシステムが、`diag-level` 値に `mem1` または `mem2` を使用して動作している場合に見られる可能性があります。

可用性機能の拡張

5.19.0 ファームウェアリリースは、Solaris 10 オペレーティングシステムが動作しているドメインを持つシステムで使用した場合に、Solaris が検出したハードウェア障害イベントに関する情報を提供します。この情報は、Solaris ソフトウェアによって取り込まれてからシステムコントローラに伝達されます。システムコントローラは、自動診断 (AD) およびドメイン (DOM) のイベントメッセージを通じてこの情報を報告します。

ドメインのパニックループに対する制御機能の追加

- ドメインのパニックが繰り返される間、自動的に実行される POST の最大レベルを定義する新しい設定が、`setupdomain` コマンドおよび `showdomain` コマンドに追加されました。`max-panic-diag-limit` で指定したレベルが実行されるまで、POST のレベルはパニックが繰り返されるたびに段階的に引き上げられます。ドメインでふたたびパニックが発生すると、ドメインはスタンバイ状態になります。

`max-panic-diag-limit` の値は、`diag-level` と同じです。`max-panic-diag-limit` のデフォルト値は `mem2` です。

- ファームウェアバージョン 5.18.0 以降のシステムコントローラのファームウェアは、タイマーを起動して、ドメインで `Active - Panicking` 状態が 30 分間続くとドメインを再起動します。

5.19.0 でのコマンドの追加または変更

5.19.0 では、次の SC コマンドが追加されました。

- `forcepci` - PCI-X ボードのデフォルトの PCI モードの設定。
- `setupplatform` - UltraSPARC IV+ システムボードのサポートを使用可能にするための `usiv+` オプションの追加。
- `showplatform` - UltraSPARC IV+ サポートの状態を表示するための `usiv+` オプションの追加。

これらのコマンドの詳細は、『Sun Fire ミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』の説明を参照してください。

一般的な情報

一部のミッドレンジシステムの要件

UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードまたは PCI-X I/O ボード (あるいはその両方) を搭載した E6900/E4900 システムおよびミッドレンジシステムでは、5.19.0 ファームウェアと、Solaris リリースの最小要件として Solaris 10 または Solaris 9 オペレーティングシステム (使用可能な場合) の互換リリースが必要です。

ファームウェアの互換性

ファームウェアバージョン 5.12.x ~ 5.19.x のファームウェアが動作するシステムボードは、相互に互換性があります。ただし、5.11.x が動作するシステムボードは、ファームウェアバージョン 5.12.x ~ 5.19.x のファームウェアが動作するシステムボードと互換性がありません。使用しているシステムボードのファームウェアの互換性は、`showboards -p version -v` コマンドを実行することによって確認できます。表示される情報から、各ボードのファームウェアが SC で動作している ScApp のバージョンと互換性があるかどうかわかります。

使用しているすべてのシステムボードのファームウェアを同じバージョンに更新し、ドメイン上でできるだけすみやかに新しいバージョンのファームウェアを起動してください。ドメインのファームウェアは、`setkeyswitch off` および `setkeyswitch on` コマンドを実行することによって起動します。システムのファームウェアの更新およびファームウェアの互換性の確認方法については、今回のファームウェアリリースに付属する `Install.info` ファイルを参照してください。

一部のハードウェアコンポーネントでは、次に示すとおり、ファームウェアバージョンの最小要件を満たす必要があります。

- UltraSPARC IV CPU/メモリーボードには、5.16.0 以降のファームウェアが必要。UltraSPARC IV CPU/メモリーボードは、5.16.0 より前のリリースのファームウェアでは動作しません。
- UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードには、5.19.0 以降のファームウェアが必要。UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードは、5.19.0 より前のリリースのファームウェアでは動作しません。
- COD ボードでは、COD をサポートするファームウェアバージョンが動作している必要があります。COD のサポートは、ファームウェアリリース 5.14.0 で導入されました。

ドメインでの UltraSPARC IV+ システムボードの使用

使用している Sun Fire E6900 または 6800 システムの構成に、システムボードを組み合わせたことができます。システムボードの組み合わせは、作成できるドメインの構成に影響します。ただし、パーティションに UltraSPARC IV+ システムボードが含まれる場合、そのパーティション内では 1 つのドメインしかアクティブにできません。

表 1 に、ドメイン構成のオプションを示します。

表 1 Sun Fire E6900 または 6800 システムのドメインでのシステムボードの組み合わせ

構成	ドメイン A	ドメイン B	ドメイン C	ドメイン D	setupplatform usiv+ 変数
2 つのドメインで US IV+ を使用	US III+ US IV US IV+	オフ	US III+ US IV US IV+	オフ	a, c = true
1 つのドメインで US IV+ を使用	US III+ US IV US IV+	オフ	US III+ US IV	US III+ US IV	a = true
1 つのドメインで US IV+ を使用	US III+ US IV	US III+ US IV	US III+ US IV US IV+	オフ	c = true
すべてのドメイン で US IV+ を使用 しない	US III+ US IV	US III+ US IV	US III+ US IV	US III+ US IV	a, c = false

Sun Fire E4900 または 4800 システムのドメインを構成する場合も、同様の構成が適用されます。表 2 を参照してください。

表 2 Sun Fire E4900 または 4800 システムのドメインでのシステムボードの組み合わせ

構成	ドメイン A	ドメイン C	setupplatform usiv+ 変数
2 つのドメインで US IV+ を使用	US III+	US III+	a, c = true
	US IV	US IV	
	US IV+	US IV+	
1 つのドメインで US IV+ を使用	US III+	US III+	a = true
	US IV	US IV	
	US IV+		
1 つのドメインで US IV+ を使用	US III+	US III+	c = true
	US IV	US IV	
		US IV+	
すべてのドメイン で US IV+ を使用 しない	US III+	US III+	a, c = false
	US IV	US IV	

▼ UltraSPARC IV+ のドメインでのサポートを使用可能にする

- setupplatform コマンドを使用して、ドメイン A またはドメイン C での usiv+ のサポートを変更します

次に例を示します。

```

schostrname:A> setupplatform -p usiv+

UltraSPARC IV+ Configuration
-----
Is UltraSPARC IV+ going to be deployed in domain A? [false]: true
Is UltraSPARC IV+ going to be deployed in domain C? [false]:

```

setupplatform コマンドの詳細は、『Sun Fire ミッドレンジシステムコントローラ コマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

注 - usiv+ オプションは、影響を受けるパーティション内のすべてのドメインがオフになっている場合にのみ変更できます。setkeyswitch コマンドを使用してドメインの電源を投入および切断する方法の詳細は、『Sun Fire ミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

▼ UltraSPARC IV+ のドメインでのサポートの状態を表示する

- showplatform -p usiv+ コマンドを使用します
次に例を示します。

```
schostname:A> showplatform -p usiv+

UltraSPARC IV+ is supported in domain A
UltraSPARC IV+ is not supported in domain C
```

UltraSPARC IV+ I/O ボードの DR の制限事項

Sun Fire E6900 または E4900 サーバーが次のように構成されている場合は、DR に制限事項があります。

- シングルパーティション内の単一ドメインで、1 枚以上の UltraSPARC IV+ システムボードを使用している

または

- デュアルパーティションモードでの 2 つのドメイン (A および C) 構成で、各ドメインで 1 枚以上の UltraSPARC IV+ システムボードを使用している

この場合、DR の connect コマンドおよび configure コマンドを使用してドメインに I/O ボードを追加することはできません。ただし、前述のシステムで、I/O ボードに対して DR の unconfigure コマンドおよび disconnect コマンドを使用することはできます。

DR では I/O ボードのテストが可能な 2 つめのドメインが必要であるため、この制限事項が発生します。ボードの取り外しおよび交換については、プラットフォームの管理マニュアルを参照してください。

ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード

ファームウェアのアップグレード手順については、Sun Fire ミッドレンジシステムのこのファームウェアリリースに付属する `Install.info` ファイルに記載されています。また、`Install.info` ファイルには、以前のバージョンのファームウェアへのダウングレード手順も記載されています。

E6900/E4900 システムおよび UltraSPARC IV CPU/メモリーボードを搭載したシステムでは、バージョン 5.16.0 以降のファームウェアを実行する必要があります。これより前のバージョンのファームウェアは、UltraSPARC IV CPU/メモリーボードをサポートしていません。

E6900/E4900 システムおよび UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードを搭載したシステムでは、バージョン 5.19.0 以降のファームウェアを実行する必要があります。これより前のバージョンのファームウェアは、UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードをサポートしていません。

SC V2 が構成されているミッドレンジシステムは、5.19.0 から以前のリリースのファームウェアにダウングレードできます。ただし、以前のリリースのファームウェアでは、5.19.0 での新機能およびバグの修正がサポートされないことに注意してください。



注意 – 冗長システムコントローラ (SC) 構成の場合は、`Install.info` ファイルの記述に従って、まずスベア SC のファームウェアをアップグレードしてから、メイン SC のファームウェアをアップグレードする必要があります。

電源装置の障害

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムでは、ファームウェアをバージョン 5.14.x 以降にアップグレードしたあとで電源の切断または投入を行うと、電源装置に障害が発生する場合があります。

注 – この節で説明する障害は、A184 および A185 の電源装置では発生しません。

電源装置に障害が発生すると、次の現象が現れます。

- 電源装置のオレンジ色の障害 LED のみが点灯する。
- `showboards` コマンドの出力に、電源装置の Status フィールドに `Failed` と示されるか、Component Type フィールドに `No Grid Power` と示される。

次の回避策に従って、電源装置の障害を解決してください。まず、回避策 1 を実行してください。回避策 1 で解決できない場合には、回避策 2 を実行してください。回避策 2 で解決できない場合には、回避策 3 を実行してください。

- 回避策 1 – 電源装置のスイッチをオフにしてからオンに設定してください。ただし、Sun Fire 6800 システムの場合は、電源装置にスイッチがないため、回避策 2 を実行してください。
- 回避策 2 – 障害の発生した電源装置をシステムから取り外し、20 秒待ってから再度取り付けてください。緑色の起動 LED 以外にも点灯している LED がある場合は、緑色の起動 LED のみが点灯された状態になるまで、この手順を繰り返してください。数回試みる必要がある場合があります。
- 回避策 3 – SC を再起動してください。その後、power on コマンドを使用して電源装置をオンに設定してください。

Sun Fire ミッドレンジシステムの既知の制限事項

この節では、重大な影響を及ぼす可能性のあるバグについてのみ説明します。README ファイルには、Sun の内部だけで検出されたバグも含めて、修正済みのすべてのバグの一覧が記載されています。

SNMP: FrameManager には MIB のエントリがなく、フレーム状態トラップが発生しない (RFE 4987286)

SNMP は、ミッドレンジシステムコントローラのプライベートインタフェースです。このため、Sun Management Center が SNMP を介して FrameManager の情報を受信することはありません。ログホストが存在する場合、FrameManager および RTU の状態はログホストから監視できることに注意してください。

回避策: ありません。

sgcn_output_line(): OBP console blocked; message data lost (バグ ID 4939206)

Solaris オペレーティングシステムまたは OpenBoot PROM からのデータの提供が、システムコントローラによるコンソールへのデータの書き込みよりも速い場合は、表示されないコンソールメッセージが存在することを示すメッセージが表示されます。

回避策: ありません。

ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID 5060748、6255332)

ミッドレンジシステムのファームウェアを 5.17.x または 5.18.x からそれより前のファームウェアバージョンにダウングレードしたあとで接続形式を変更した場合、そのあとでファームウェアを 5.17.x または 5.18.x に更新して戻すと、古いファームウェアバージョンで新たに選択した接続形式は保証されません。ファームウェアを古いファームウェアバージョンから 5.17.x または 5.18.x に更新すると、古いファームウェアバージョンで変更する前に 5.17.x または 5.18.x で使用していた元の接続形式が復元されます。

回避策: システムの安全性を確保するために、`setupplatform` コマンドを使用して、接続形式を明示的に設定してください。

setkeyswitch または testboard 処理のあとで、ボードの状態が不正になる (バグ ID 5066326)

ドメインでパニックが発生したあと、またはドメインでエラーが検出された場合、そのあとに実行された `setkeyswitch` または `testboard` 処理の出力には、ボードプロセッサの状態が `Unknown` であると表示されます。次に例を示します。

```
schostname:A> testb sb4
Sep 24 11:01:53 schostname-sc0 Domain-A.POST: Domain A: diag-level = init
Sep 24 11:01:53 schostname-sc0 Domain-A.POST: Domain A: verbosity-level = min
Sep 24 11:01:53 schostname-sc0 Domain-A.POST: Domain A: error-level = max
{/N0/SB4/P0} Unknown
{/N0/SB4/P1} Unknown
{/N0/SB4/P2} Unknown
{/N0/SB4/P3} Unknown
schostname:A>
```

回避策: システムコントローラを再起動してください。

電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される 場合がある (バグ ID 5093450)

セグメントの追加処理中に電源障害および SC の再起動が発生すると、再起動時に 1 つ以上の SEEPROM セグメントが破壊される場合があります。次の例のログシーケンスは、不当なタグの記述を示しています。

```
Aug 04 14:18:42 schostname-SC0 schostname-sc0 Platform.SC: [ID 470632 local0.error]
/N0/SB2: SepromSegment(constructor): ID at 0x0042: Illegal Tag 0x00 at 0x002b
Aug 04 14:18:42 schostname-sc0 schostname-sc0 Platform.SC: [ID 576073 local0.error]
/N0/SB2: SepromSegment(constructor): PE at 0x00bf: Illegal Tag 0x00 at 0x0102
Aug 04 14:18:42 schostname-sc0 schostname-sc0 Platform.SC: [ID 982808 local0.error]
/N0/SB2: SepromSegment(constructor): PS at 0x01c6: Illegal Tag 0x00 at 0x0000
Aug 04 14:18:42 schostname-sc0 schostname-sc0 Platform.SC: [ID 586548 local0.error]
/N0/SB2: SepromSegment(constructor): FD at 0x01dd: Illegal Tag 0x00 at 0x0002
Aug 04 14:18:46 schostname-sc0 Platform.SC: [ID 139087 local0.notice] Clear
/N0/SB2 invalid segment
.
.
.
```

このようなエラーメッセージが表示された場合でも、ドメインの可用性には影響ありません。

回避策: ありません。

SC コンソールに 「(tSshConn): memPartAlloc: block too big」というメッセージが表示される (バ グ ID 6279689、6229067)

複数のユーザーが、SSH 接続を使用して同時に SC に接続しようとする、SC でパニックが発生し、次のメッセージが SC コンソールに表示される可能性があります。

```
schostname:A> 0x3c27b78 (tSshConn): memPartAlloc: block too big -
40947 in partition 0x3b8c7d0.
[0x3c27b78] xrealloc: out of memory (new_size 40947 bytes)
```

回避策: ありません。

showcomponent の状態は disabled だが、enablecomponent の状態は enabled である (バグ ID 6284667)

コンポーネント名を簡略形式で指定すると、enablecomponent コマンドがコンポーネントの状態を誤って報告する場合があります。次に例を示します。

```
schostname:SC> showcomp ib6
```

Component	Status	Pending	POST	Description
/N0/IB6/P0	enabled	-	untest	IO Controller 0
/N0/IB6/P1	disabled	-	untest	IO Controller 1
/N0/IB6/P0/B0	enabled	-	untest	100/66/33MHz. PCIX/EPCI/PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1	enabled	-	untest	33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P1/B0	disabled	-	untest	100/66/33MHz. PCIX/EPCI/PCI Bus
/N0/IB6/P1/B1	disabled	-	untest	100/66/33MHz. PCIX/EPCI/PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1/C0	enabled	-	untest	33MHz. 3.3V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1	enabled	-	untest	33MHz. 3.3V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C2	enabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				
/N0/IB6/P0/B0/C3	enabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				
/N0/IB6/P1/B1/C4	disabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				
/N0/IB6/P1/B1/C5	disabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				
/N0/IB6/P1/B0/C6	disabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				
/N0/IB6/P1/B0/C7	disabled	-	untest	100/66/33MHz. 3.3V Long/Short
PCIX/EPCI/PCI card				

```
schostname:SC> enablecomp ib6/c4 ib6/c5 ib6/c6 ib6/c7
```

```
ib6/c4: is already enabled.
```

```
ib6/c5: is already enabled.
```

```
ib6/c6: is already enabled.
```

```
ib6/c7: is already enabled.
```

回避策: /N0/IB6/P1/B1/C4 など、完全指定のコンポーネント名を使用してください。

poweron が失敗を返したときに、誤ったメッセージが出力される (BugID 6287631)

一部のサポートされていないコンポーネントを使用すると、「*component: does not have grid power*」などの、誤解を招くようなメッセージが生成される場合があります。次に例を示します。

```
schostrname:SC> poweroff all
...
/N0/IB6: does not have grid power
/N0/IB7: does not have grid power
/N0/IB8: does not have grid power
/N0/IB9: does not have grid power
...
```

回避策: 指定した IB 内のすべてのコンポーネントがサポートされていることを確認してください。

RTOS: SC が ping に応答しないが、tNetTask は動作しているように見える (バグ ID 6287893)

状況によっては、システムコントローラへの Ethernet 接続がハングアップする可能性があります。ただし、シリアル接続は引き続きアクセスできます。

回避策: システムコントローラを再起動してください。

